

波多野勤子 （波多野） 児童心理學者、文學博士。明治二十八年十一月二十一日東京生れ、昭和五十二年九月十五自殺（九五—五六）。舊姓富山。昭和二年日本女子大學英文科卒、十一年東京文理科大学心理學科卒。母親乃學園理事長、東洋大學教授、國立音楽大學教授等歴任。この間、長男との往復書翰を収めた『少年期（母と子の四年間の記録）』（昭和二十五年十月）日本文社。のち、二十九年十一月二十日「カツパ・ブックス」を出版、翌年ひひけてベスト・セラーとなつた。夫は心理學者波多野完治。

著書は他に『母の子供・國の子供』（昭和十一年五月十五日西村書店）、『ボクノエ日記』（松井行止書、昭和十七年九月十五日帝國教育會出版部「新日本幼年文庫」）、『こ都物語』（デイゲンズ原作、昭和二十二年七月十五日西村書店「私の花籠双書」）、『幼児の聲のせるたのしみ話』（與田準一共編、昭和二十四年十月十日中央公論社「婦人新書」）、『新入學兒童の導き方』（合著、昭和二十五年二月二十日西野書店）、『幼年期』（昭和二十六年六月）二十七年日本文社）、『二役女房—私の夫婦心理学』（昭和二十四年十一月）二十五年中央公論社）等。

